

利他の心

志と協働を支える「利他の心」を教育に活かす

と

2

原発災害に立ち向かう福島県天栄村の取り組みに学ぶ「プロジェクト学習」と、立命館大学附属校教諭によるアクティブラーニングの取り組みを紹介した1号に引き続き、2号では、多面的な視点と論理的思考を育む「リベラルアーツ」の授業と演劇づくりを通じて多様性の受容と協働を学ぶ「演劇教育」を紹介。利他の心と教育の接点を探ります。

倉石寛
立命館大学 OIC 総合研究機構 稲盛経営哲学研究センター 副センター長。1971～2015年にかけて私立灘中学・高校で日本史の教鞭をとる。教頭時代には「土曜講座」を開講、卒業生を中心に、ソーシャルな活動をする専門家・実践経験者を招き、灘校生に偏差値を超えたキャリアについて考えさせる。歴史教育者協議会のメンバーでもある。

リベラルアーツ 本質的な「問い」が、生徒の思考を始動させる。

「クラカンの灘高・日本史リベラルアーツ授業」

生徒たちがロジカルシンキングやクリティカルシンキングを鍛え、ディベートで論破する力をつけること、それがリベラルアーツだと信じている向きも少なくない。しかしクラカンこと倉石寛教授のリベラルアーツ観は全く違う。勝ち負けをつけるためではなく、お互いの考えをじっくりと聞き統合していく、対話型の議論こそ、リベラルアーツだと考える。

今回は、日本史を題材にリベラルアーツを教えるクラカンの授業（2015年2月に灘高2年生に実施）を紹介するとともに、対談でクラカンのリベラルアーツ観を掘り下げていきます。

授業の流れ

資料の読み方を伝える

宮沢賢治の詩「雨ニモ負ケズ」には、「寒サノ夏ハオロオロ歩キ」という箇所があります。寒サノ夏とは冷夏のこと。冷夏が東北の人々に与えた影響が窺い知れます。

資料1によると、賢治の生きた明治・大正の現代までの約100年の間に、東北では22回の凶作、8回の大凶作がありました。つまり、5年に1回は凶作、10年に1回近くは大凶作が発生したことになります。さらに、



問い① 課題発見・設定の問い

江戸期、東北で飢饉が度重なり、多くの人が餓死したのはなぜか？

資料1 東北地方の水稲作の作況指数

冷害年	作柄	作況指数						
		東北	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島
1902(明35)	大凶作	55	45	35	48	72	70	57
1905(明38)	〃	45	66	29	12	71	70	23
1906(明39)	〃	77	55	86	63	98	95	66
1910(明43)	局部的不凶作	-	-	-	-	-	-	-
1913(大2)	大凶作	48	19	59	46	67	47	48
1931(昭6)	凶作	82	51	88	93	84	90	88
1934(昭9)	大凶作	56	45	44	56	72	53	65
1935(昭10)	凶作	-	-	-	-	-	-	-
1941(昭16)	大凶作	72	40	69	70	83	98	73
1945(昭20)	〃	-	-	-	-	-	-	-
1953(昭28)	凶作	89	83	90	93	97	97	68
1954(昭29)	局部的不凶作	100	103	97	101	103	113	98
1964(昭39)	〃	99	91	97	93	105	104	92
1966(昭41)	〃	99	94	94	98	96	107	105
1971(昭46)	不作	94	101	94	96	93	90	92
1976(昭51)	凶作	90	91	82	90	95	92	89
1980(昭55)	大凶作	78	47	60	79	99	97	74
1981(昭56)	凶作	85	65	76	88	88	92	94
1982(昭57)	不作	96	99	89	91	103	97	94
1988(昭63)	凶作	85	84	85	75	93	92	76
1991(平3)	不作	95	87	90	90	94	92	94
1993(平5)	大凶作	56	28	30	37	83	79	61

作表指数…106以上<良>・102～105<やや良>・99～101<平年並み>・95～98<やや不良>・94以下<不良>・90以下<著しい不良>

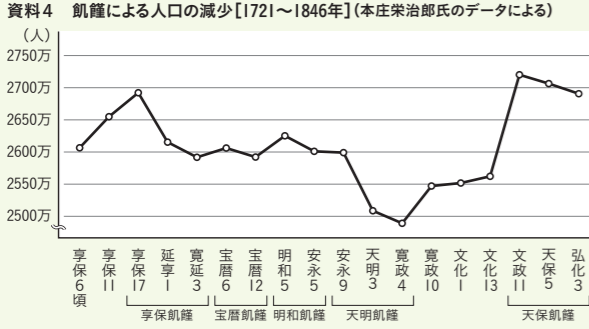
資料2 天明の夏の天気(日光御番所日記より)

	晴	晴～夕立	曇	雨	不明	計
天明1	35	11	13	31	2	92
2	45	4	5	37	1	92
3	33	2	10	47	0	92
4	37	0	20	25	10	92
5	48	5	8	31	0	92
6	26	3	15	46	2	92

資料3 各藩の状況

津軽藩	八戸藩	相馬藩	南部藩
人口 24万人程度 餓死 10.2万人 病死 3.0万人 逃亡 2.0万人 絶戸 3.5万人 ※18.7万人減(78%)	人口 7,184人 死絶 1,984人 立去 869人 ※死絶・立去で 2,853人減(40%)	48,242人中 16,575人減(32%)	30万人中 6.5万人減(22%)

⇒かくてこれらの藩は「藩」ではなくなりつつあった。



数年連続して米の取れ高が例年の半分程度になります。各藩で政治経済が閉ざされていた江戸時代、幕府や他藩からの救援は期待できず、食糧不足により餓死者が続出しました。

クラカンの授業は資料とテーマが面白く、深く考えられる問いなので、生徒からはいろいろな意見が出ます。課題を解決するための問いではなく、課題を発見する問いを投げかけるのが、クラカンの特徴。史実では当たり前となっているフレームを疑う問いによって、課題を発見・設定する力が身に着いていくと考えているのです。

大きな問いは、どのような筋道で考えていくといいのか、生徒たちが迷う可能性があります。そこで、補助となる問いを重ねて、生徒たちの議論を促進させていきます。

- 冷涼で雨の多い夏をくり返す東北に、米作は向いているのか？
- ではなぜ、東北諸藩は無理な米作りを続けるのか？
- なぜ寒冷地でも作りやすい、そばや麦・粟や稗を作らないのか？

ある程度意見が出たところで、クラカンが議論を方向付ける問いを生徒に投げかけ、さらなる議論へと導いていきます。

解答例を紹介する

幕藩体制は、米遣いの経済。各藩は、流通力のある米を江戸・大坂で売却して参勤交代や江戸滞在の費用を賄います。従って、農地の多くを水田にして、米の取れ高を多くすることが、藩政の使命になっていました。東北の藩主は飢饉の中、藩内の米(年貢)を江戸や大坂で売らなければならなかったのです。

クラカンは、長期休暇の際の宿題に、このような大きな問いを投げかけ、休暇期間中に生徒に考えさせます。これらは、その時は生徒たちの回答です。

